

クンダリニー：生命の秘密

バーバ・ムクターナンダの著書からの抜粋

実際、まさにこの肉体は神の神殿である。人間の肉体以上に素晴らしい神殿はない。私たちは皆、このことについて熟考し、自分の中に神が宿っているということを理解しなくてはならない。「これは私の財産だ」とか、「これは私の家だ」と言うように、「神は私の中に宿っている」と言う権利を獲得すべきである。トゥカーラーム・マハーラージは次のように言った。「私は神を探しに行ったが、神を見つけることはできなかった。私自身が神になった。まさにこの肉体の中で、神はその姿を現したのだ」。これは正真正銘の真実である。

クンダリニーがサハスラーラに融合すると、このような知識が生まれる。これがパラバクティ、至高なる献身の境地である。そこには信奉者も神も世界もなく、あるものはただ一体感のみである。川が長い間、流れていって、ついに大海に流れ込み、大海となるように、クンダリニーがその仕事を終え、サハスラーラに落ち着くと、あなたは神に完全に没頭するようになる。

不純さも覆いもすべて壊され、大いなる自己の中に完全に憩う。それまであなたに二元性を見せていたベールは切り落とされ、あなたは世界をクンダリニーの至福にあふれた戯れ、神のエネルギーの戯れとして体験する。あなたは宇宙がこよなく至福に満ちた光であり、あなた自身と何ら変わらないことを理解し、その認識は揺るぎないものとなる。これが悟りの境地、完全なる境地である。

この境地を達成した者は、サマーディに入るために目を閉じたり、人里離れた場所へ行く必要はない。瞑想していても、食事をしていても、入浴していても、眠っていても、一人でいても、人と一緒にいても、大いなる自己の安らぎと喜びに浸ってられる。目に入るものはすべて神で

あり、耳に入るものはすべて神であり、口に入るものはすべて神であり、語る言葉はすべて神の言葉である。この世の真ん中で洞窟の孤独を感じ、人混みの中にありながら、サマーディの至福を味わう。これが『シヴァ・スートラ』で説く、ローカーナンダ・サマーディ・スカム——「この世の至福はサマーディの恍惚(こうこつ)」——と呼ばれる境地である。

この境地に達するために瞑想をすべきであり、クンダリニーを覚醒すべきである。神に達するために瞑想するのではない。なぜなら、私たちは既に神を達成しているからだ。神が自らの中に顕在することに気づくために瞑想をする。これがシッダ・ヨーガの知識、完全なる師の恩恵によりクンダリニーが目覚めて始まる内なるヨーガの成果である。

故に、私はいつも、すべての人にこう言うのだ。「あなたの大いなる自己について瞑想しなさい、あなたの大いなる自己を敬いなさい、あなたの大いなる自己を崇拝しなさい、神はあなたとしてあなたの中に住んでいるのだから」

Swami Muktananda, *Kundalini: The Secret of Life*, 3rd ed.
(South Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1994), p.45.
デザインレイアウト: Shabnam Labra, Hira Tanner



© 2023 SYDA Foundation®. 著作権所有。